
「毀れる花」

まったりorz

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「毀れる花」

【Nコード】

N9250E

【作者名】

まったりorz

【あらすじ】

おっさんを使った変てこな詩です。あらすじは特にないです。
(おっさん企画参加作品)

一、

朝、通学路を横切ると
おじさんが死んでいた。

朝、学校に行く私とおじさんは
いつもすれ違うのだった。

二、

死んでるの？
隣を歩いていた友達が言った。

枯れてるみたいね。
私は何となく呟いた。

三、

夕方、私よりも大きなおじさんの細い指から、
黄緑の蔓^{つた}がのびていた。

細い睫^{まつげ}の上に、紋白蝶がとまっている。
白髪のない髪は、細い葉むらになっていた。

四、

朝、友達がおじさんを見て言った。

植物的ね。おじさんの細い肩を指差した。

花は咲かないのかな。

おじさんは緑の葉っぱで、花はなかった。

五、

水をやったらどうか。

友達はまだ言った。

そうだね。

私はおじさんの緑の髪の毛に触った。生温い。

六、

夜、抜け駆けして、こっそり水遣りに行った。

月明かりの下、どこかの虫の鳴き声が白く滲んだ。

蒸し暑い夜だった。

おじさんは小さな星のような花をつけた。

七、

白い花は水を含んで揺れた。

おじさんの指の蔭から、一つ、二つ、三つ、

光がはじけるように花は咲いた。

友達に教えようと思ったけど、おじさんは夜露と一緒に土に溶けていった。

八、

朝、あの人は植物的だったね。

友達は居なくなつたおじさんの事をそつ譬^{たと}えた。

朝陽の眩しい通学路に

毀^{こわ}れた花の匂いだけが残っている。

了

（後書き）

読んで下さった方、有難うございます！

えーとこの度、おっさん企画へのお誘いを頂き、勝手に参加させて頂きました。

企画主催者様、挨拶など全く出来ていない&企画内容を完璧に理解出来てない状況での身勝手な参加すいません。

おっさんよ夏の夜空に打ちあがれということで、詩での参加なのですが、企画の規則に合ってなければ、除外して下さい（汗）

（8月25日：後書き）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9250e/>

「毀れる花」

2010年10月8日13時10分発行